



# 海の向こうから

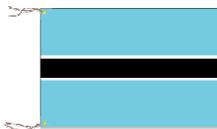
皆さん こんにちは編集長のキムテツです。広島は毎日暑い日？猛暑が続いていますがいかがお過ごしでしょうか？ゲリラ豪雨による自然災害が各地で発生した7月。原爆の日を迎えた8月。あっという間に9月がやって来そうな感じが任国での活動を精力的に行われている現役隊員の方々は、どのように時間を過ごされているのでしょうか？今回もまたOB会会報を発行する時期になりました。どうぞ最後まで一読ください。

まずは、3月にOB会会長に着任された鈴木OBからメッセージを頂きました。

## 広島県OB会会長 着任おめでとう



鈴木 知昇さん  
H15年度3次隊  
ボツワナ  
コンピューター技術



広島県OB会会員みなさま、任国で活動中の隊員みなさま、3月より青年海外協力隊広島県OB会の会長となりました鈴木と申します。みんなからはマスターと呼ばれています。よろしくお願いいたします。

広島県OB会では、私は様々な飲み会に参加し、気が付けば会長になっていました。なぜ私が選ばれたのかは分かりませんが、この歴史あるOB会の会長に選んで頂いたからには、みなさまの期待に応えるようOB会を盛り上げて行きたいと思えます。

広島県OB会の良いところは、新しいメンバーで構成されていることです。県外に出て行く人も多いですが、帰国した隊員がOBとなり、メンバーが入れ替わっていきます。今まで過去に会員が積み重ねて作り上げてきた各団体への信頼や、今まで実施してきたイベントを受け継ぎながらも新しい力で盛り上げていきたいと思えます。

現在派遣中の隊員の方も、広島に帰って来られた際にはぜひOB会のイベントなどにも参加してください。そしてついでに理事にもなっていただければうれしく思います。

広島に居られるOBの方で、OB会のイベントになかなか参加出来ず、なかなか顔を出されない方も居られますが、もしお暇なときでもあればいつでもご参加ください。

これから中国ブロック大会や、秋の様々なイベントがありますので、一緒に盛り上げていきましょう。よろしくお願いいたします。

新理事決定！

新しい顔ぶれも。加わったOB会役員を含めてご紹介いたします。

役職	氏名	業務
会長	鈴木 知昇	総会、定例会、OB 会運営総括
副会長	山城 亮介	会長代行・補佐
副会長	中林 樹里	JICA、JOCA 向け書類作成・提出
事務局長	細川 光宜	OB・対外窓口、郵便物
事務局長補佐	金江 聡美	名簿管理、一斉メール
会計	鍵山 あや	会費管理、年度末決算
理事	木村 哲也	会報編集長
理事	石津 智久	出国前アンケート
理事	大木 健一	中・四国ブロック大会
理事	大下 友慶	帰国報告会
理事	前田 貴子	国際交流・協力の日(屋台)
理事	狩山 聡子	料理
理事	山城 亮介	
理事	石津 智久	
理事	久田 光孝	ボランティア家族連絡会
理事	高村 和美	派遣中隊員支援
理事	前田 貴子	名刺担当
理事	榎本 伸悦	HOCA ほかプロジェクト
理事	村上 加枝	スキルアップセミナー
理事	川端 麻子	ホームページ更新
理事	五十嵐 静保	壮行会
理事	坪井 智美	お帰りの会
理事	江崎 美穂	エッセイコンテスト
理事	井 尚子	
理事	松岡 美砂	
理事	碓木 利恵	
理事	磯本 光広	
ブロック幹事	橋本 英治	
監査	木村 宣子	
監査	天野 重美	

是非、皆さまもOB会に参加してみませんか？

派遣中の隊員も続々帰国し、新しい顔ぶれもどんどん増えていますよ。

まずは、3ヶ月に一度広島市内で行われる帰国隊員お帰りの会&出発隊員壮行会に参加されてみてはいかがでしょうか？

# OBからの优惠价

春まで OB 会の理事として大活躍されていた渡辺（旧姓：大田黒）留衣さんがご結婚されご主人のお仕事の関係でインドに滞在されています。インドでの生の声が届きました。



大田黒 留衣さん  
H14年度1次隊  
体育  
マラウイ



## インド滞在記

皆さん、ナマスカル！

私は 14 年度 1 次隊（マラウイ・体育）の渡辺留衣といます。この春から、インドにやってきました。

JICA ボランティア O.V. の方々には、この「インド」という国を訪れた方々も多いのではないのでしょうか。

私もずっと昔、「インドは若いうちに行っておけ。」というような言葉を聞いたか読んだかして以来、一度は訪れてみたい国の 1 つでした。

そんなインドで暮らし始めて早 2 ヶ月。とはいえ、まだ皆さんが想像していらっしゃるような「インド」を見ていないし、経験もしていないのですが、私が住んでいる「インド」と今感じていることをほんの少しご紹介してみたいと思います。



私が住むグルガオンという町は、私自身思い描いていたインドとは程遠い場所です。デリーから南西に車で約 1 時間。数々の高層アパート、オフィスビル、そして巨大なショッピングモールが立ち並び、また建設中の新興都市です。先日デリーにつながるメトロも、まだ建設中でありながら開通しました。

そうは言っても、皆さんが任地で見かけたような、道端でベンダーがいろいろ売っていたり、物乞いの人が寄ってきたり、道路脇のまだ何も建設されていない原っぱに住んでいる人がいたりします。早朝、20 階建てのマンションなどから、そのぽっかりと空いた原っぱを見下ろすと、たくさんの人たちがしゃがみこむ姿を見ることができます。（失礼しました…。）

同じく道路脇には立派な角が生えた牛がゆったりと歩いたり、泥水で汚くなった豚の親子がとことこと歩いたり、どこか懐かしい光景も垣間見ることができます。ここは 4・5 年前まではただの荒野だったそうです。

そしてここインドに来て驚いたのは、当然と言ったら当然かもしれませんが、人と車の多さ、そして貧富の差、です。

とにかくどこに行ってもたくさんの人、車。（中国にいらっしゃった方は、もっとすごかったのかもしれないのですが…。）やはり今、この人の多さに活気を感じ、この国の勢いを感じます。

また、貧富の差については、それ自体、そして貧しさの質がマラウイとは異なり、教育や宗教とからめて数々の驚きと疑問が日々湧きあがってきています。

ただ、それらは置いておいて、都会でも田舎でも、いろんな人、乗り物、生き物が混在するのがインドであり、日本人は、自分の国ではありえないこの混在に驚き、そして魅了されてしまうんだらうな、と思う今日この頃です。

# OB紹介

このコーナーでは、日本で活躍中の協力隊OBの方に登場していただきます。帰国後3年以上経たれている方にスポットを当て、現在派遣中の隊員が心配している「帰国後」に迫ります。

1. お名前は 久田芳子です。
2. どちらに派遣されたのですか？ 1996年1月～1998年1月 Paraguay  
2003年4月～2005年4月 Bolivia
3. 職種は 歯科衛生士・看護師です。
4. 派遣中はどのような仕事を？ Paraguay 1年目は小・中・高を巡回し口腔衛生指導。2年目は妊婦・乳幼児の口腔衛生指導を行いました。  
  
Bolivia では小・中・高を巡回し保健衛生指導。  
成人には肥満予防の食事・日常生活の見直しなどを指導しました。
6. 派遣前の職業や簡単な経歴を教えてください 社会人を経て免許を取得。歯学部付属病院に勤務していました。
7. シニア海外ボランティアに何故行こうと思いましたか？ 身内に何人か海外で生活した者がいて話を聞く機会も多かったのでいつか自分も海外に出て働いてみたいと思っていました。
8. 行ってみての感想 言葉も通じない外国でちゃんとやってゆけるのか不安もありましたが、その状況に飛び込めば道を開く力が出てくることを知りました。
9. 帰国後の職業（現在） 無職。（高齢者といわれる歳になりました）
10. お仕事にボランティアの経験が生かされましたか？ 物事を先々思い悩まなくなりました。
11. 派遣中のシニアにアドバイスを早く CP や現地の人々との交流を多く持つとお互いの風俗、習慣が理解でき仕事もしやすくなります。
12. 帰国後、任国へ遊びにいかれましたか？ 帰国後3年してボリビアに行き6ヶ月滞在しました。  
サンタクルスで尊敬されている日本人の神父さんの紹介で貧しい地区の保育所で朝8時半頃から午後2時頃まで厨房などをお手伝いしました。またPCの家族や派遣中仲良くなった日本人の方々、活動地の人々にお会いし懐かしく交流しました。



久田さんありがとうございました。日本に帰国して久しぶりに里帰りしてみる喜びを私も早く味わってみたいなあー

←久田OV

さてお次は、派遣から30年が経過された河原です。30年前の協力隊ってどんな感じだったんだろうって興味が湧きます。

1. お名前は 河原 功（かわはら いさお）です。
2. どちらに派遣されたのですか？ ホンジュラスです。
3. 隊次は 昭和55年度2次隊です。  
(もう、大分昔になりますね。)
4. 職種は 水産物加工です。
5. 派遣中はどのような仕事を？  
まず、ホンジュラス着任後、直ぐにカリブ海沿いの漁村を廻って、未・低利用の水産資源の有無を調べ、その結果、サメ、海ナマズ（チュンテ）の存在を知り、これらの魚から魚肉ボールを簡単に作れる方法を、漁民の奥さん達を対象に指導しました。 試作品を作って  
テグシガルパのサンシンドロの市場で、定期的に試験販売もしました。
6. 派遣前の職業や簡単な経歴を教えてください  
水産大学を卒業後、小田原の鈴広蒲鉾会社で水産加工（主に水産練り製品）の技術を約1年半学び、その後、協力隊の試験に合格したので、協力隊に参加しました。  
実は、大学卒業直後にも、協力隊の試験を受けたのですが、1次試験は合格したのですが、2次試験で、実務経験の不足を理由に不合格となりました。どうしても、協力隊に参加したかったので、協力隊本部に頼んで、小田原の鈴広蒲鉾を紹介して貰い、そこで実務経験を積んだ後に、晴れて合格しました。
7. 協力隊になぜいこうと思いましたか？  
学生時代より、海外志向は強かったのですが、学生時代の最後の年に、自転車を担いでカナダに渡り、2ヶ月間、カナディアンロッキーを縦走する1人旅をしました。このカナダの経験が、自分の海外志向の気持ちに一層の拍車がかかり、将来は、是非海外で仕事をしたいと思うようになり、そして、協力隊参加が夢を実現できる方法として、自分の中で具現化してきました。
8. 協力隊に行ってみての感想  
規模は小さいながら、自分で企画立案して、その実現のために必要な準備を整え、そして、協力者と共に実行に移すと言う、仕事の醍醐味を味わいました。
9. 帰国後の職業（現在）  
帰国後は、農林水産省の外郭団体「財団法人 海外漁業協力財団」の水産専門家として採用されて、順次、下記の国々に技術協力の専門家として赴任しました。
  - \* スリナム共和国（2年9カ月）
  - \* モロッコ王国（4年3カ月）
  - \* ナミビア共和国（5年）
  - \* ペルー共和国（1年）
  - \* カーボベルデ共和国（2年8カ月）
  - \* ガボン共和国（3ヶ月）
  - \* ギニア共和国（3ヶ月）
  - \* セーシェル共和国（1年4カ月）財団での海外赴任期間は、計約18年間です。



その後、2008年10月末、財団を退職して、東京より私の故郷である尾道に居を移し、昨年2009年9月に妻と共に中南米・アフリカ関連支援のコンサルタント会社「株式会社アミーゴス」設立して、現在、鋭意活動中です。

会社の事務所は、尾道市役所から徒歩30秒の所にありますので、尾道を訪れる機会があったら、是非、事務所の方にお寄り下さいね。

10. 今のお仕事に協力隊の経験が  
生きていますか？

協力隊を含めて、専門家として海外赴任の経験が、自分の会社を設立する動機となっています。

11. 派遣中の隊員にアドバイスを  
お願いします

協力隊の活動は、自分の考えで企画・立案して、必要な準備して、仲間と共に実行できる、とても面白くて遣り甲斐のある活動です。

将来会社や役所に入ったら、いろいろな制約が増えて、なかなか自分の考えで実行できる機会が少なくなるので、協力隊時代は、自分の好きなことがやれる絶好の機会です。是非、頑張ってくださいね。

12. 帰国後、任国へ遊びに  
いかれましたか？

未だ、遊びには行っていません。

昔の仲間にも会いたいし、また、昔の懐かしい所にも是非一度訪問してみたいのですが、

まだ、機会がありません。南米には何度も行ったので、ホンジュラスの上空は何度も通過しているのですが、今度は、是非、ホンジュラスに降りてみたいですね。



←河原OV

ありがとうございました。私が派遣されていたホンジュラス共和国と言うことで河原様は大先輩になられますね。

当時と今の首都の変貌振りを見られたらびっくりされることでしょう。尾道へ行かれた際は、是非アミーゴスに立ち寄ってみましょう

→植松OV



## 着任報告

このたび、JICA国際協力推進員が井OVから植松OVにバトンタッチされました。どんな方なのかインタビューしてみました。

植松 弥穂（平成8年度3次隊 パラグアイ 美術）

青年海外協力隊広島県OB会の皆さま、こんにちは。

2月1日付けでJICA国際協力推進員として着任いたしました、植松弥穂（うえまつ みほ）と申します。

国際協力推進員とは、「JICA事業広報」「市民の海外ボランティア活動参加」

「学校、地域などでの国際理解教育のお手伝い」などを行うのがお仕事。（と、名刺のウラに書いてありましたー）

しかし、着任からはや5か月が経つというのに、未だに「どうしたらいいの?」「どうするの?」と毎日業務でバタついている始末、ああ情けなや。

隊員としては、平成8年度3次隊ですので、現在OB会に所属されている方々の中でも、古い年度に入るのではと思います。ワールドカップで日本がベスト8入りを目指して戦った相手国、パラグアイに派遣されておりました。

今回の事でちょっとだけパラグアイの知名度も上がったのではと喜んでいるのですが、TVでは「人より牛の方が数が多い」「芝のコートも靴もなく、みんな土の上で裸足でサッカーしています」といった情報ばかり。間違いではないけど、決して国のイメージアップにはつながらなさそうでした。

日本×パラグアイ戦は家で観戦していたのですが、両国の国歌斉唱の部分で、パラグアイ国歌を大熱唱する私を見て、「今、広島でパラグアイ国歌を歌っているのはたぶん9人だけだ・・・」（広島県在住のパラグアイ人は現在8人なのだそうです。）と夫はおののき、完全に引いていました（笑）

皆さん同じだと思いますが、帰国しても、何年経ってもやはり協力隊として過ごした任国は懐かしく、愛しいもの。そして協力隊として活動した2年間は忘れ難い大事な思い出ですよ。

今後OB会の皆さんとはイベントや壮行会等でお会いする機会もあると思います。その際は、どうか宜しく願いいたします。

これからOVの方は、さまざまなイベントで一緒される機会が増えることでしょう。派遣中の皆様も困ったことがあったり、相談があるときはメールでアポイントととられてみてはいかがでしょうか？心強い推進員さんですよ。

## 帰国隊員

最近帰国された隊員をご紹介します。

- お名前は 祝迫直子（いわいごこなおこ）です。
- どちらに派遣されたのですか？ インドネシアです。
- 隊次は 20年度1次隊です。
- 職種は 青少年活動です。
- 派遣中はどのような仕事を？ 要請内容は識字教育の普及活動でした。村の中は現地語（マカッサル語）が話され、共通語のインドネシア語を話せない・書けない人がたくさんいました。私はインドネシア語の指導ではなく、ライフスキルの向上に向けて活動していました。
- 派遣前の職業や簡単な経歴を 大学を卒業後、教職浪人でフリーター（朝・昼・晩違うアルバイトをしていました）を6年しながら、受験勉強していました。その後、広島県の高校の地理歴史・公民科（いわゆる社会科）の教員となることができました。6年間働いた後、青年海外協力隊へ！！
- 協力隊になぜいこうと思いましたか？ 教員として教えているときに、国際～～と名のつくもの（例：国際政治、国際経済・・・）を教える機会が多く、その中で私自身が一番教えることが難しいと感じたのが「国際協力」でした。いくら本を読んだり、ビデオを見たり、経験者のお話をお聞きしても、自分自身は何もしていないという思いがありました。そうこうしているうちに、実際に教員で行かれた方と出会い、背中をおしてもらいました。
- 協力隊に行ってみての感想 生活者として住んだからこそ、本当の異文化理解は難しいことを実感しました。私自身は活動で何ができたわけでもありませんが、現地の人々がいつも



温かく接して下さったことで、最後には感謝の気持ちを持って、インドネシアを離れることができました。

9. 帰国後の職業（現在）

広島県立高宮高等学校の教員です。元の職場に復帰いたしました。

10. 今のお仕事に協力隊の経験が  
生きていますか？

教員である以上、青年海外協力隊の経験を活かさなければと毎日思って過ごしています。

教科の授業に還元できるときは残念ながら限られてしまいますが、学校全体の教育活動の中で、活かしていくチャンスはあります！！

11. 派遣中の隊員にアドバイスを

青年海外協力隊は人生の中で、かけがえのない貴重な時間です。現地の人々との時間を大いに楽しんでください。要請内容と異なる状況であっても、できることをやればそれで十分だと思います。どうか健康第一で！！

現職教員でしたので、他の同期隊員より3ヶ月早く2010年3月に帰国しました。ゴールデンウィークにインドネシアに行くべきか、他の同期隊員の任地へ行くべきか迷いましたが、知り合いがいる時でなければ実りのある任地訪問はできないと思い、チュニジア（同期の作業療法士隊員の任地）に行きました。インドネシアへは、年末年始に行ければと思っています。もうあまり自由に飛びまわれない身となってしまいましたが、心はいつもインドネシアに飛んでいます！！

12. 帰国後、任国へ遊びに

現職教員でしたので、他の同期隊員より3ヶ月早く2010年3月に帰国しました。ゴールデンウィークにインドネシアに行くべきか、他の同期隊員の任地へ行くべきか迷いましたが、知り合いがいる時でなければ実りのある任地訪問はできないと思い、チュニジア（同期の作業療法士隊員の任地）に行きました。インドネシアへは、年末年始に行ければと思っています。もうあまり自由に飛びまわれない身となってしまいましたが、心はいつもインドネシアに飛んでいます！！

ありがとうございました。今頃は、今年の年末に向けてインドネシア渡航計画を練られているのでしょうか？

お次は、つい最近帰国されました瀧田OVの登場です。

1. お名前は

瀧田英生



2. どちらに派遣されたのですか？

エチオピア

3. 隊次は

2008年度4次隊

4. 職種は

給水施設設計

5. 派遣中はどのような仕事を？

アディスアベバ市上下水道局に派遣されて、技術次長傘下の、水生産・配水課、無収水・システム管理課、下水道課、水需要・水源管理課のスタッフに技術指導を行いました。

アフリカへのJICA技術指導で、初めての、都市型水道事業体への派遣でした。

6. 派遣前の職業や簡単な経歴を

大学を卒業後、県庁の土木技術職として、主に水処理関連の職場で34年間働き、定年退職後に、シニア海外ボランティアに応募しました。

7. 協力隊になぜいこうと思いましたか？

ライフワークである「持続可能な水処理技術」で、国際貢献したいと思っており、自分の技術力、生活力、語学力を、途上国の現場で、試してみたかった。

8. 協力隊に行ってみての感想

都市型水道事業体での技術指導(交流)の分野は、多岐・広範にわたっており、今後も、継続的な指導(交流)体制を確立することが必要だと思いました。

9. 帰国後の職業(現在)

無職。

10. 今のお仕事に協力隊の経験が  
生きていますか?

11. 派遣中の隊員にアドバイスを  
お願いします。

健康が第一です。まず、現地の食材で先ず、現地の食材で、美味しいレシピを開発し、楽しい食生活をキープしてください。

12. 帰国後、任国へ遊びにいけましたか? 今秋の再派遣に向けて、資料収集とネットワーク作りをしています。

秋の再派遣を目指されているとのことでした。しばし日本で疲れを取られて体調を整えて頑張ってください。

# 派遣前アンケート

21年度4次隊と22年度1次隊の皆さまに聞いてみました。  
送迎会に参加され、アンケート提出があった方のみ掲載しています。

まずは、21年度4次隊の皆さまです。

名前	職種	派遣国	応募したきっかけ	訓練所の思い出	今の心境	2年間の意気込み
宇根 沙織	青少年活動	ブルキナファソ	中学生の頃にJICA中国に社会見学に行った際に、国際協力の分野があることを知り、興味を持ちました。その後、NZで教育実習をする機会があり、生徒の中に途上国の方がいました。その出会いがきっかけで自分も実際に海外で活躍したいと思いました。	私は補修があったので、朝8時からフランス語漬けで、昼休憩も参考書を片手に持って食べたこと。	勉強と荷造りに追われて、「なるようになるか」と投げやりな気分です。	現地の人と協力し、自分の特技を活かして、実りの多い2年にしたいです。
松尾 昌親	青少年活動	マダガスカル	アフリカで子供たちにサッカーを教えたかったから ・自分の目でアフリカを見てみたかったから	毎週開かれる飲み会	不安もあるが楽しみ	無理せず、ちゃんと休みながらコツコツやっていきたい
上田 愛	村落開発普及員	ブルキナファソ	2年前にオーストラリアにワーホリで滞在したときに、たくさんの人に助けられたので、自分も人のためにできることをしたいと思い応募しました。	フランス語の勉強。こんなに勉強したのは初めてでした。	楽しみです。でも、まだ荷物ができてなくて心配……。そして、フランス語を勉強する時間がとれず、忘れかけてます。	楽しく笑顔で活動!!そして次の生きる道を見つけてきます
増村 雄司	理数科教師	マーシャル	国際協力に興味があったから	いろいろな種類の隊員と仲良くなったこと	やる気でいっぱいです	できることを精一杯する

来栖 弘幸	村落開発普及員	モザンビーク	国際協力に興味があったから	体育館でのサッカー	楽しみです	できるだけ任国の役に立てるような活動をしたい
-------	---------	--------	---------------	-----------	-------	------------------------

続きまして22年度1次隊の皆様です

名前	職種	派遣国	応募したきっかけ	訓練所の思い出	今の心境	2年間の意気込み
隅田さやか	看護師	ウズベキスタン	元々国際協力に興味があった。病院勤務する中で、組織人として役割遂行することに重点を置いてしまっていたため、自分の知識や技術、看護観を自由に発揮したいと思って応募した。	委員会。語学授業の次に力を入れていたから。文化祭や体育祭などのイベントなども楽しかったし、最後の壮行会で、他の隊員と深い話ができただのは良かった。	不安半分、期待半分。たくさんの人に送り出してもらうので、いい活動をしたいという気持ちが強い。	日本、広島とウズベキスタンを繋げられるような、記憶に残る日本人になれるように、人間関係を大切にしたいです。
綱本 麻希	日本語教師	マーシャル	以前、協力隊に参加したことのあるOGの方の話を聞いて興味がありました。子供に対する日本語教育をしたいと思っていて、協力隊だと、そのような形の日本語教育に携われると思い、応募しました。	文化祭。生活班対抗の女装・男装企画がとてもおもしろかったです。	楽しみです！ただ、まだ荷造りが終わってなくて部屋が荒れ放題。家に帰りたくないです・・・(笑)	現地の人と沢山交流して楽しみたいと思います。共に楽しみ、共に学びます！
重森 豊	ソーシャルワーカー	ガボン	途上国を旅した際、自分も何かできることをと考えたことがきっかけ。	バンド活動	不安と期待でいっぱい	初心忘れるべからず！！
松田 尚子	小学校教諭	パラグアイ	小さい頃（小学生の頃）から興味があって ・もっとたくさんの人と出会ってみたいと思って ・教員として何ができるか考えてみたくて	たくさんの仲間と出会って苦楽を共にした事です。いろいろな話をしてとても楽しく過ごしました！	まだ実感がわきません・・・が、周りのみんなに励まされて、楽しんで活動することができるといいなと思っています。	笑顔を大切にしていって、現地の方と楽しく活動していきたいです！
新屋由美子	村落開発普及員	カメルーン	もともと国際協力の仕事をしていた、一度は村落開発に関わってみたかったため	フランス語の授業。厳しいながらも愛情こもった先生の笑顔が忘れられません。	応募から1年以上経過して、いよいよ出発の日を迎えるのはとても感慨深いです。	現地に貢献できる活動を行いたいと思います。

新家 美穂	村落開発普及員	ウガンダ	もともと国際協力が開発に興味があった	大阪でのシニア25人・JOCV25人という大人な雰囲気研修。1番下っ端だったので・・・。	早く行きたい！！	ウガンダ人になれるように楽しく健康に過ごす！！
粉川 綾佳	小学校教諭	バングラデシュ	高校生の頃から海外で小学校教諭をしてみたかったです。また、発展途上国の子供たちに関心がありました。協力隊の存在を知った時に「自分が今1番したいことはこれだ！」と思いました。	隊員たちでつくりあげた体育祭・文化祭です。私は文化祭実行委員だったので、訓練最後にとってもすてきな思い出ができました。ライブや女装大会、書道パフォーマンス等をしました。	不安を今感じても仕方ない！今を大切にしよう。悩む時にとことん悩もう！！といった感じです。	いかに現地人になるかが私の目標です。押しつけるようなことはせず、共に考え、共に悩む、そんな2年にしたいです。

### 編集室から

編集員が私一人なので是非、世界各地の隊員の皆様に特派員、広島県に散らばっているOBの皆様に記者になって頂きいろんな情報を載せていきたいと思っております。（12月末）には、次の作成に入ります。それまでにどンドン任国での面白エピソード・活動紹介、活躍されているOB紹介（自薦・他薦は問いません）などお待ちしております。

投稿・ご意見・ご要望は、こちらまで↓

hiroshima\_jocv\_obkai@yahoo.co.jp（OB会メール）

or [lifetetsu@hotmail.com](mailto:lifetetsu@hotmail.com)（編集長直接メール）

編集長：木村 哲也

（17年度3次隊 ホンジュラス 建築）

編集室所在地：広島県東広島市

木村哲也建築デザインオフィス内

